

発生する前からのチョウバエの対策

2月に入り季節は春間近、チョウバエが気になってくる季節になりました。



チョウバエ抑制の重要ポイントは、『駆除』ではなく『予防』をする事にあります。

一度駆除に成功しても再び進入してきて、生息に適した場所に卵を植え付け、再び繁殖します。その為、生息を許さない為の環境づくりが最も重要になってきます。

暖かくなり、チョウバエが繁殖し始める3月になる前から、繁殖しづらい環境を整える事が重要になってきます。

その環境を作る為には、チョウバエが繁殖しやすい場所を知る必要があります。それではチョウバエは、どのような場所に卵を植えつけるのでしょうか？



厨房内における1番の原因は、什器下に溜まったゴミです。また、グリストラップ内や排水溝の側面の凹凸や、水面に溜まったスカム、蓋の裏側等も大きな原因となります。

これらの場所に卵を植え付け繁殖する訳です。

これらの原因に共通しているのは、ゴミや汚れが主な生息条件になっている事です。ならば、その原因を取り除けばよい訳です。

～什器下のゴミを処理しよう～

何故、什器下にゴミは溜まるのでしょうか？

それは、床に落ちたゴミが空調機の風や厨房清掃の為に流した水で什器下奥に流されるからです。一度入り込んだゴミは、いくら水を流したとしても出てきません。

その為、ゴミは落としたりすぐ拾う等、普段からの徹底した掃除が必要です。

閉店後の清掃時には、掃き掃除を徹底してから水を流し、最後に床面をスクレーパー等でしっかり水をはきましょ



う。こまめに什器下をチェックして、ゴミが溜まっているようでしたら取り出しましょう。

～グリストラップ・排水溝をきれいにしよう～

グリストラップは、水に浮いているスカムやゴミを取り除いた上で、壁面等の汚れを擦り取りましょ

う。また、排水溝は壁面等の汚れをデッキブラシ等で擦り取りましょ



う。これらの場所には汚れが溜まりやすいので、最低週に一回は必ずチェックましょ



う。厨房内の清掃の徹底はチョウバエだけではなく、ゴキブリを始めとした様々な害虫の抑制にも繋がります。衛生面の改善が出来ます。

～生息してしまったら～

基本的にチョウバエの幼虫は成虫が飛んでいる場所の近くに生息しています。

見かける付近を中心として、グリストラップや排水溝、什器下にバケツ等の容器を使用し、熱湯を流します。それだけで、卵や幼虫を死滅させる事が出来ます。

また、その後に100倍程度に薄めた次亜塩素酸の漂白剤を流すと、予防に繋がります。

チョウバエの幼虫は10日ほどで成虫になり、成虫は種類・生息条件にもよりますが、2週間程でその生涯を終えます。その為、卵と幼虫が居なくなれば、自然とチョウバエはいなくなります。

この作業を、環境を整えると同時に週一回ほど行えば、かなりの効果が出ます。それでも生息がなくなる場合は、お気軽にご相談下さい。



FCCオリジナルエコ商品紹介

FCCオイルクリーン

油を石ケン状の成分に変え、落としやすくします。頑固な油汚れにはこの一本！
1本/1ℓ ¥3,150- (税込)



FCCバイオ球

バイオの力で『臭い』や『つまり』を解消！グリストラップ清掃時、FCCオイルクリーンと併用するとより効果的です。
1袋/30個入り ¥8,925- (税込)



衛生トピックス ～『うがい』をしよう！～



2月に入り、冷え込みも一段と厳しくなってきました。風邪を引きやすいこの時期、みなさんの周りにも体調を崩されている方が多いのではないのでしょうか？

風邪の予防といえば、『人ごみを避ける』『十分な睡眠』『外出時にはマスクをする』『ビタミンCの摂取』・・・など、いろいろな言われています。

しかし、一番の予防法は『手洗い・うがい』の徹底です。風邪と言えば空気感染でうつるイメージがありますが、実際は人と人の手を伝って感染する事の方が遥かに多いのです。



手洗い・うがいはただ行うのではなく、何の為に必要なのかを理解して、効果的に行いましょう。「自分の体の中にウイルスや微生物を持ち込まない」ということです。多くのウイルス、微生物は、のどや消化器の粘膜・目の粘膜・鼻の粘膜から感染します。

これらの粘膜をウイルスの付いた手で触らないために『手洗い』を、また呼吸によってのどや目の粘膜に付いてしまったウイルスを洗い流すために『うがい』を行います。以上のことを常に考えて行うとよいでしょう。

今回は、特に『うがい』について採り上げます。



のどは微生物の入口となり、鼻から入ったウイルスや微生物も、のどに付着します。これらが悪さをする前に、うがいで洗い流し、感染予防をしましょう。

電車内など、人が多く集まる閉鎖された場所では、空気中にただよっているウイルスなどを吸いこんでしまう危険性が高くなります。外から帰ったら、まずうがいをしましょう。



うがいには38～39度のぬるめの水を使用すると効果が高いようです。また、紅茶・緑茶・ハーブティーなども同様に効果が高いようです。

- ①ぶくぶくうがいを15秒～20秒（水を含んだ後、口を閉じてほほをふくらましたり閉じたりする）
- ②ガラガラうがい15秒～20秒（水を含んだ後、天井を見ながら口を開けてのどの入り口でガラガラと洗う）
- ③もう一度ガラガラうがいを15秒～20秒

風邪の予防の為に『手洗い・うがい』の徹底で、しっかり風邪予防をする事により、忙しい期末の時期を元気にのりきりましょ

地球の環境衛生を創造する
株式会社 FCC
line, comfortable & creative

株式会社 FCC

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL www.fccsystem.co.jp

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCC News

2009年2月号

NO.0060



- 目次 -

季節のムシ暦⑭

季節を問わず活躍するケジラミ

環境コラム マイ箸運動

衛生トピックス うがいをしよう！

発生する前からのチョウバエ対策

FCCオリジナルエコ商品紹介

季節を問わず活躍するケジラミ

厳冬を迎えるときすがに、眼にする虫の姿が、激減する。それでも、ひっそりと温々とくらす虫もある。それは、「シラミ」と称する小昆虫で、この虫は、虱(シラミ)目」に属し、哺乳動物の外部寄生昆虫である。人や動物に寄生し、その血液を餌として生活している。したがって、季節とは無関係に発生し、人に苦痛を与える。

このシラミ仲間には、アタマジラミ、コロモシラミとケジラミの3種があつて、いずれも人の身体の上で生活をする。ここでは、人との関係が密接な「ケジラミ」について、その生態と駆除法について紹介する。今さら「ケジラミ」と思う人もあろうが、どうしてどうして「密(セン)やか」なる問題虫なのである。世の中が不況になったり、戦争が起ると増える傾向にある。この虫は、保健衛生の適否を反映する指標昆虫である。

このケジラミは、外形が「カニ」に似ていて、英名をCrab Louseと云う。通常の生活場所は、人の「陰毛」や肛門の周囲である。かつて、このケジラミが、小児の眉毛に寄生して話題になったことがある。何故ならば、このケジラミの伝播は、もっぱら身体の接触によるもので、交接や同衾などが主要なものである。

ケジラミの害は、吸血による皮膚炎であるが、一回に多量を吸血する事は無く、少しづつ頻繁に吸血する。吸血時に、口吻を皮膚に刺入れたまま間歇的に吸血する性質がある。ケジラミの刺螫は、猛烈な「かゆみ」を引き起し、そこを掻きむしるため皮膚を誘発するが、これを「ケジラミ症」と称している。

ケジラミの生活史は、卵期間が6日前後、幼虫期間が14日前後である。幼虫は、3齢を経て成虫となる。ただし、ケジラミは、人体を離れては生活不能であり、飢餓状態での寿命が、10℃で28時間、20℃では23時間、30℃で17時間と高温になるに従い、短くなる傾向にある。

問題のケジラミに集(ヅ)られて「ケジラミ症」は、戦後の一時期、姿を消したものの、再び昭和52年頃から急増した。その状況を見ると、この患者の年齢層は、20〜34才が全体の62%を占めたと言われている。

また、その感染源は、男性の場合では最も多かったのが、「特殊浴場」であり、それに次ぐのが、外国人女性であったと云う。女性の場合は、1位が夫であるが、男友達と云うのも大きな割合を占めたと言われている。

このような情景の中で、このケジラミの駆除には、様々な苦勞があつた。昔、中国では、硫化砒素、水銀、イチョウの実などが用いられたようだ。わが国でも、戦前は、食酢と石油あるいは揮発油を等量に混合した液剤を寄生部位に浸し、約30分程放置した後、「石ケン」でよく洗浄し、乾燥後に「スキグシ」ですき取る方法がとられていた。想像するに、滑稽な風景である。

その後、有機塩素殺虫剤のDDTやBHCなどを用いるようになったが、それに代ってスミチオンを使用した時期もあつた。今日では、スミスリン・パウダーが、盛んに使用されている。たかが、「ケジラミ」と云うが、大変に奥の深い虫である。

【写真説明】

秘所に巣喰う、世相を反映するケジラミ



環境コラム ～マイ箸運動～

マイ箸とは、読んで字の如く持ち歩いて使用する自分用の箸の事を指します。

近年では、割り箸と環境問題の関係について様々な議論がなされています。大きく分けて意見は2つ。



1つは割り箸は衛生的かつ間伐材や端材を使用している為、資源の循環利用に役立つとして、推奨する意見。

なるほど、割り箸は昭和に入り大量生産が可能となり、その後、衛生面の配慮も手伝い普及した背景がある為、頷ける内容です。

もう1つに、割り箸は基本的に使い捨てであり、原料となる木材は国内ではなく途上国や新興国の森林を伐採して使用することが多い為、使用を減らすべきという意見。

マイ箸運動は、後者の意見から割り箸の使用量を減らす目的で始まりました。

最近では、行政や企業等でもマイ箸を推奨するキャンペーンが行われており普及が進んでいます。

それでは行政はどのような対応をしているのでしょうか？

環境省は2008年の環境／循環型社会白書の中で、「割り箸を『使い捨て文化』や『森林破壊』の元凶として批判したり、2006年にまとめた『地域における容器包装廃棄物』3R推進モデル事業」では、早稲田大学による「キャンパスとその周辺地域における3R推進コミュニケーションモデル事業」が紹介されています。その中で、3R促進プログラムの一環として、マイ箸に関する取り組みをあげています。

林野庁は、暮らしに国産材の製品を取り入れて森を育てる「木づかい」を広報、普及するホームページ「国産材、使って減らそうCO2」で、国産材を原料としたマイ箸を販売するコンビニエンスストアの取り組みを紹介したりと、行政ではマイ箸運動を是としています。

また、民間の取り組みとして、企業やNPOによる運動やキャンペーンも盛んに行われており、マイ箸をもつ人のネットワークの「マイ箸クラブ」や、端材から箸をつくるワークショップを行うNPO法人もあります。

マイ箸は日本発の環境への取り組みとして、海外にも認知されてきています。

一方、衛生的な面で見たら割り箸の方がいいのも事実です。

マイ箸が是なら、割り箸は非」ではなく、双方のよい面を吟味し、使い分けていくのが大事なのではないのでしょうか？

